

第1章 まちづくり研究会の内容

1. まちづくり研究会の設立経緯

小矢部市では、近年の市町村を取り巻く社会情勢の急変のなかで、人口減少・少子高齢化問題や、中心市街地の活性化対策、国の三位一体改革による厳しい財政状況など多くの課題を抱えています。

また、東海北陸自動車道の全線開通や、北陸新幹線の開通は、今後のまちづくりにおいて大きな役割を果たすことが予想され、これら高速交通網を活かした、新しいまちづくりのあり方について検討が求められています。

こうした中、これらの諸課題に対して、小矢部市の将来に向け新しいまちづくりの方策について、次世代を担う市民と市職員とが協働して研究する場として、小矢部市まちづくり研究会が設立されました。

2. まちづくりの現状と課題

(1) まちづくり

まちづくりという言葉が、これほど聞かれるようになったのはいつからでしょうか。そして、まちづくりという言葉が、自分たちのまちを元気ある住みよいまちにするための市民活動に対して用いられるようになったのはいつからでしょうか。

これまで、まちづくりという言葉は、行政が行う事業の中でよく使われてきました。それは好調な景気の中、快適な生活環境は行政が整えるものであり、その恩恵を受けるのは市民であるといった関係が長く続いてきた結果であり、そこには、将来にわたるまちの発展を行政に任せてきた市民の姿がありました。

市民が携わるまちづくりには2つのパターンがあります。1つは、自治会や町内会が行う生活に直結したまちづくり活動であり、もう1つは、地域における各種団体や、祭りの実行委員会などが取り組む地域活性化のためのまちづくりです。小矢部市においても、この数年、景気の低迷や人口の減少などが要因で、まちの活気が失われる中、市民自らまちを活性化させたいと、まちづくり団体や祭りの実行委員会が組織され、個々に活動を展開するようになりました。

(2) まちづくりの現状

小矢部市には 2 つの市街地と 18 の地区が実在します。各地区では、そこに住む人の努力により、自治会組織が確立され、市民は地域の一員としてまちづくりに携わってきました。そして、そこから生まれる地域力は現在でも自治体運営上欠かすことのできない原動力となっています。

しかし、将来に向けたまちづくりを考えた場合、小矢部市全体を視野に入れた市民参加のまちづくりも必要な時代となり、地区意識が強い小矢部市においては地区の自治機能を残しつつ、市民のまちづくりに対する認識を、小矢部市全体を見据えたものにしていく必要があると考えます。

(3) 定まらないまちづくりのテーマ

小矢部市にはメルヘン・火牛・縄文・クロスランドを題材にしたまちづくりのテーマがあります。また、この他にも歴史・ロマン・文化・健康・福祉・にぎわい・自然・安全・ふれあいをキーワードとした、行政が掲げるテーマのもと市政が運営されています。これらのテーマは、小矢部市の持つ資源のすべてを生かそうとする取り組みではあるものの、すべてのテーマに対し均等に力を注いでいる現状が、市内外から見ても小矢部市の個性を感じにくいものになっています。

(4) 小矢部市の誇れるもの

小矢部市の誇れるものを考えたとき、価値ある歴史的財産や、自然環境、交通網の良さなどが挙げられます。しかし、それらの誇れるものも全国レベルで見た場合、決して小矢部市にしかないものではありません。実は小矢部市が全国に誇れるものの一番は、家庭・地域の密接な人間関係であり、地域の人に支えられ受け継がれてきた獅子舞や曳山、夜高などの伝統や文化、そして各地区の自治機能ではないかと思えます。

今から 20 年前、自分たちの住むまちを自らの手で活気ある住みよいまちにしようと、メルヘン'90(現在のおやべ祭り)が市民主体のイベントとしてスタートしました。その後、小矢部市の将来を創造し、まちづくりに携わろうとする人や団体が少しずつ増え、小矢部の元気を市内外に発信する機会も多くなりました。また、最近では、市民と行政が連携をとり、まちを育てていこうとする機運も盛り上がっています。

(5) まちづくり研究会が考えるこれからのまちづくり

(子供たちが 10 年後も住みたいと思うまちの創造)

限られた人や財源の中、市民の要望に沿う形で、昔からある地区の区割りに沿って満遍なく予算を配分し、不公平がないようにしてきたこれまで

の制度に対し、市民自らが意識を変え、一市一地区の認識のもと不要なものへの財政的・人的投資をなくし、必要なものに思い切った投資をする必要があります。

また、小矢部市では、まちづくりに携わる人や団体が確実に増えてきています。しかし、その人たちが集まりお互いの活動を調整することなく、せつかくの活動が一体的なまちづくりに繋がっていない現状もあり、今後、行政とも連携し、まちを思う人たちの力を一つにまとめることが先決だと考えます。また、市民のまちづくりに対する思いを集約し、実現可能なものについては、市民と行政が協働で形にしていく仕組み作りも必要と考えます。

今回、まちづくり研究会では、我がまち意識を持つこれらの自立した市民と、行政がいかに連携しまちづくりをすすめていくかを大きな研究課題とし、まちの将来をいくつかの視点から考えてみました。ここで、2年間にわたる研究内容を報告します。

3. まちづくり研究会の体制

区 分	役 職	氏 名	平成 17 年度 (所属班)	平成 18 年度 (所属班)
公 募 (一般市民)	座 長	村上 一宏	②	①
		萩沢 友一	①	①
公 募 (市職員)		野澤 正幸	①	④
		森 通	②	②
		松本 賢司	①	④
		高地 匡樹	②	③
団体推薦 (一般市民)	副座長	坪野 睦	①	③
	副座長	出合 正虎	②	④
		島津 貴之	①	①
		田地このみ	②	②
教育長・部長推薦 (市職員)		橋本 里美	②	③
		大浦 健一	①	②
		大沼 昌代	①	①
		沼田 彰男	②	②